

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690500024		
法人名	医療法人 恵愛会		
事業所名	グループホームのどか		
所在地	徳島県美馬市美馬町字沼田73-1		
自己評価作成日	令和4年1月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和4年4月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者が日々いきいきと過ごせるように、脳トレや体操、レクリエーション、家事活動などを通して日中の活動性を高められるよう支援に取り組んでいる。 2. 同一法人の病院と連携し、重度化や急変時に対応できる体制が整っている。 3. 利用者の機能低下防止に向けて、リハビリ専門職や管理栄養士など多職種と連携しサポートできる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、県道から少し離れた静かな田園地帯に位置している。近隣には、同一法人が運営する医療機関や他サービス事業所があり、行事等での連携を図りつつ、急変時には24時間対応可能な体制を整備し、利用者や家族等の安心につなげている。近隣を散歩した際、地域住民と挨拶を交わすとともに、神輿の来訪を受けたり、地域住民から野菜の差し入れを受けたりするなど、日常的に地域との交流を図っている。また、定期的な避難訓練の際にも、地域住民の協力を得ている。新型コロナウイルス感染症の流行下においても、安全面に配慮しつつ、可能な範囲での地域交流や外出支援を継続し、関係性が途切れることのないよう努めている。管理者は、法人と連携を図りつつ、各委員会の設置・開催や福利厚生充実を図るなど、サービスの質の向上に向けて具体的に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ゆり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を確認し合う意味から、毎朝の申し送り時に全職員で理念を唱和し、具体化することを意識し統一したケアにつなげている。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえつつ、全職員で検討した、事業所独自の理念を掲げている。毎朝、申し送り時に理念を唱和したり、新人研修で伝えたりして、職員間での共有化を図り、日ごろの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策として、これまでのような積極的な交流はできていない。地域の方が育てた野菜の収穫を手伝ったり、神輿の慰問等感染対策をしながら交流の機会を設けている。	事業所では、近隣の幼稚園やボランティア等の来訪を受けるなどして、地域と交流している。感染症(コロナ等)の流行下においては、近隣住民から野菜の差し入れを受けたり、神輿の来訪を受けたりして、安全面に配慮しつつ、交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや慰問等で交流のある地域住民のお宅に年二回程あいさつ回りし、これまで積み上げてきた関係性を継続できるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染症対策として、2か月に一度、運営推進会議の資料を自治会長や老人会代表者、利用者家族全員に送付し、書面での報告を行っている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行下においては、書面会議を行っている。市の担当者や地域包括支援センター、家族、町内会長、地域の関係者等に送付し、意見等を収集している。管理者は、出された意見をよりサービスの質の向上に活かすことを検討している。	今後は、各委員から出された意見等をもとに、職員会議等の機会に職員間での周知を図るとともに、協議・検討を重ね、サービスの質の向上に活かす取り組みの実施に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者には、運営推進会議の資料を通じて運営や現場の実情を伝え、要望や意見を聞くようにしている。また、介護保険の認定時に利用者の生活状況やニーズを伝え連携を深めている。	事業所では、感染症の流行に伴い、電話や郵送等により、市の担当者への状況報告を行っている。また、地域包括支援センターから入居相談を受けたり、市が主催する研修会に参加したりするなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化委員会を設け、定期的に勉強会を行っている。具体的にどのような行為が身体拘束になるか理解を深めるとともに、対応についても話し合い、身体拘束をしない支援を心がけている。	事業所では、3か月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、拘束の内容や弊害等について、職員間での理解を深めている。年1回、内部研修を開催し、マニュアルを見直している。職員は、利用者の人権を尊重した支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会を行い理解を深めるとともに、職員による虐待防止に努めている。また、言葉遣いにも十分注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ゆり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり勉強会を開き、制度についての理解を深めている。現在、成年後見制度を利用している方がおり、後見人とも定期的に情報交換を行い支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の事業所見学を勧め、利用料や起こりうるリスク、重度化や医療連携体制の実際について詳しく説明し、同意を得るようにしている。不安や疑問がないか、面談時に話を聞くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、面会時に意見や要望を聞くようにしている。利用者からは常日頃から何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。	事業所では、日ごろの支援のなかで、利用者の意見や意向等の把握に努めている。家族等は、面会時や年1回のアンケートなどの機会に、意見や要望等を聞き取っている。出された意見は、職員会議で検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、職員から要望や意見を聞く機会を設けている。言い難い不満や苦情については意見箱を設置し把握に努めている。また、ミーティング、勉強会等でコミュニケーションを図るようにしている。	管理者は、毎日の申し送りや定期的な委員会、職員会議など、職員の意見や提案等を聞く機会を設けている。出された意見等をもとに、職員一人ひとりの力量を活かしつつ、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得が給料の改善につながり、研修は参加費等で支援する制度があり、向上心を持って働けるよう努めている。また、疲労やストレスに気配りし、有給休暇も取得しやすいうよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験、習熟度等に応じて、外部研修への計画的な参加や、eラーニングシステムを利用した自主参加など、感染症の状況をみながら支援している。また、各委員会の勉強会を実施し、全職員が共有できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	美馬市主催の集団指導会や研修会に参加し連携、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			やり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず事前面談で生活状況や心身の状態を把握するようにしている。本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や今までのサービス利用状況などの経緯をしっかりと聞き、家族が今いちばん困っていることを受け止めるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を確認し改善に向けた支援の提案、相談をしながら信頼関係を築き必要なサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、共に過ごす者同士としてお互いが協働しながらより良い関係性を築けるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には、利用者の日頃の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることを心がけており、本人を共に支えていくための協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力で、地域に暮らす馴染みの人との関係が継続できるよう、感染対策をしながら面会を支援している。また、要望に応じて電話やハガキでの交流を支援している。	事業所では、利用者の馴染みの人や場所との関係性が継続できるよう支援している。感染症の流行下においても、窓越しでの面会を行ったり、少人数で馴染みの場所へドライブに出かけたりするなど、安全面に配慮しつつ、関係性が途切れることのないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の関係を把握し、個別に話を聞いたり、気の合う仲間と過ごせるよう橋渡しをしながら、利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ゆり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られたり入院された場合には、アセスメントや支援状況等を手渡すとともに、きめ細かい連携を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で、思いや希望、意向などの把握に努めている。把握が困難な場合は、言葉や表情などから思いを汲み取ったり、職員間で話し合ったり家族からも情報を得るようにしている。	職員は、日ごろの利用者との関わりの中で、思いや意向等の把握に努めている。意思の表出が困難な場合は、家族やケアマネジャーなどから情報を得つつ、職員間で共有化を図り、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のバックグラウンドを、本人をはじめ家族や友人等から情報を聞き把握に努めている。知り得た情報は職員間で共有し、プライバシーに配慮しながらケアに活かせるよう取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の利用者の心身状態を観察し、できること、わかる力を確認し合いチームで共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の要望や職員の意見を反映し、本人が持てる力を発揮しより良く暮らしていけるよう介護計画を作成している。また、状態の変化に応じて職員間でアセスメントやモニタリングを実施している。	事業所では、利用者や家族等の意向を踏まえつつ、医師や専門職等と協議し、本人本位の介護計画を作成している。定期的に、モニタリングや見直しを行うとともに、随時、本人の心身状況の変化に応じた見直しも行い、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に気づきを記入し、情報共有を行っている。変化があった場合、その都度申し送り、ミーティング時に話し合い、ケアの実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに対応できるような多職種とも連携し支援に取り組んだり、状況に応じて通院や送迎等柔軟に対応し、個々の満足度を高められるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ゆり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、地域資源の把握に努めている。要望に応じて介護タクシーや訪問歯科、訪問理美容を利用できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に受診状況を把握し、本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。他病院には、必要に応じて情報提供を行い、受診結果についても家族と情報共有をしている。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医を受診する際は、家族等の協力を得ている。協力医療機関と連携を図り、緊急時に24時間対応可能な体制を整備している。また、月2回、歯科の往診もあり、利用者や家族等の安心につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員を配置しており、利用者の日常的な健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。体調の些細な変化を見逃さないよう、早期発見に取り組み、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐために、医療機関に対して事前に本人に関する情報提供をすると共に、医師と話し合う機会を持ち、事業所内で対応可能な段階で、なるべく早く退院できるようアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で、重度化した場合の対応や終末期において事業所としてできることについての説明を行っている。また、状況変化に応じて本人・家族の安心と納得を得られるよう、医療とも連携しながら話し合いの機会を持ち、対応方法を検討している。	事業所では、入居時の段階で、重度化や終末期の方針について、利用者や家族等に説明している。随時、本人の心身状況の変化に応じて、家族等の意向を確認し、かかりつけ医や関係者等と連携を図りつつ、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師や事故防止委員を中心に、応急手当の勉強会(実技含む)を実施している。また、夜間の急変時に備えてマニュアルを作成し、周知を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。法人内の3施設合同での水害時避難訓練についても年1回実施している。また、災害に備え、食料や飲料水等を準備している。	年2回、消防署や地域住民等の協力を得て、避難訓練を実施している。年1回、同一法人が運営する他サービス事業所と合同で、水害時の避難訓練も行っている。また、マニュアルや備蓄の整備、勉強会等も実施し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			ゆり	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であり、人格者であることを常に忘れず、援助が必要な時も、まずは本人の気持ちを大切に考えて、自己決定しやすい言葉かけをするよう努めている。	事業所では、年1回、プライバシーや個人情報保護に関する研修会を開催し、サービスの質の向上を図っている。職員は、さりげない声かけを行うなど、利用者一人ひとりの人格を尊重した支援に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせて、本人が答えやすく、選びやすいような働きかけをしたり、些細なことでも本人が(する・しない等)決められる場面を作っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日程はあるが、1日の過ごし方については無理強いせず本人のペースを大切に、柔軟な対応を心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわり(衣服・ヘアスタイル等)を把握し、その人らしさを保てるような支援を心掛けている。外出が難しい方には、美容師の資格を持つ職員によるヘアカットを2か月に一度行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食を提供し、季節感を味わっていただいている。一人ひとりに合わせて食事の形態を考え、できるだけ自分で食べることができ、食事が楽しみなものとなるよう支援している。	食事には、地域住民から差し入れを受けた野菜や旬の食材等を取り入れるなど、季節を感じることができるようにしている。利用者と一緒におやつを作ったり、一緒に配膳や後片付けを行ったりして、食事を楽しむことができるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量、水分摂取量を把握している。状態に合わせて、看護師や管理栄養士のアドバイスを受け、本人の食生活を様々な面から共に支援するよう努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて、毎食後、歯磨きや義歯洗浄、ポリドントの使用等、口腔内の清潔保持に努めている。また、必要に応じて訪問歯科による義歯調整や口腔ケアを利用したり、アドバイスを受けるなどしながら支援につなげている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ゆり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状態や排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、パット類も本人に合わせて検討している。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、可能な限りトイレで排泄できるよう支援に努めている。支援の際には、さりげない声かけを行うなど、気持ちに寄りそった支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操と水分補給の徹底を行い、便秘予防に取り組んでいる。便秘がちな方に対しては下剤を使用することもあるが、個々の状態に合わせて薬を調整したり、看護師による排便を行うなどしながら本人の負担にならないよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望に合わせて、柔軟に支援している。重度の利用者については、安全面を優先し特浴を利用するなど個々にあった入浴支援をしている。	事業所では、週2回は入浴することができるよう支援している。機械浴を整備したり、同性介助を行ったりして、本人の心身状況に応じた支援を行っている。また、季節にあわせた入浴剤を活用するなど、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動性を高め、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。眠剤を飲まれている方には睡眠状況を把握し、日中の活動の妨げになっていないかを確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明書をファイルにし、全職員にわかるようにしている。また、日常の記録を医療と連携できるようにし、状態変化があった時は情報提供をし、治療や服薬調整に活かしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。嗜好品についても、お茶の時間に配慮しながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見や菊祭りなど季節の花を見に行ったり、行きたい場所には、担当者と一緒にできる範囲で出かけたりしている。重度の方についても、車椅子で戸外に出て日向ぼっこをするなど、気分転換ができるよう支援している。	事業所では、日ごろから、近隣の散歩や外気浴を行うなど、日常的な外出支援に取り組んでいる。感染症の流行下においても、年間計画・月間計画を作成し、安全面に配慮しつつ、花見や道の駅、墓参り等に出かけるなど、本人本位の外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ゆり 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で、小額のお金を持っている人もいる。管理できない方は、必要に応じ、事業所が立替え利用していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状を出す支援を欠かさずに行い、利用者の希望に応じて、電話を使用することを個別に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が不快を招かないよう、清潔を保つため細めに掃除している。また、四季を感じてもらえるよう花を飾ったり壁面に行事や外出時等の写真、作品を展示して、居心地の良い空間作りに努めている。	共用空間は、大きな窓から光が差し込み、明るい。壁面には、季節にあわせた掲示物や利用者の作品等を飾り、四季を感じることができるようにしている。小まめに清掃を行い、利用者にとって居心地の良い空間づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やフロアーにソファや椅子を置き、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士が日光浴をしたりくつろげるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、本人にとって使い慣れたもの、見慣れた物が欠かせないことを家族に話し協力をお願いしている。また、本人の希望があれば、ベッドや家具の配置を変更するなど、担当者や相談しながら居心地の良い居室作りを支援している。	居室には、利用者の馴染みの家具や調度品などを持ち込んでもらい、居心地よく過ごすことができるよう支援している。家具の配置等を工夫し、安全面に配慮しつつ、安心して過ごすことができる環境づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアーはバリアフリーであり、動線上は手すりをつけている。利用者の身体機能に合わせ、歩行器に目印を付ける等工夫し、危険防止、混乱を招かないよう配慮している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			らん 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を確認し合う意味から、毎朝の申し送り時に全職員で理念を唱和し、具体化することを意識し統一したケアにつなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策として、これまでのような積極的な交流はできていないが、地域の方が育てた野菜の収穫を手伝ったり、神輿の慰問等感染対策をしながら交流の機会を設けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや慰問等で交流のある地域住民のお宅に年二回程あいさつ回りし、これまで積み上げてきた関係性を継続できるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症対策として、2か月に一度、運営推進会議の資料を自治会長や老人会代表者、利用者家族全員に送付し、書面での報告を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者には、運営推進会議の資料を通じて運営や現場の実情を伝え、要望や意見を聞くようにしている。また、介護保険の認定時に利用者の生活状況やニーズを伝え連携を深めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化委員会を設け、定期的に勉強会を行っている。具体的にどのような行為が身体拘束になるか理解を深めるとともに、対応についても話し合い、身体拘束をしない支援を心がけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会を行い理解を深めるとともに、職員による虐待防止に努めている。また、言葉遣いにも十分注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			らん 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり勉強会を開き、制度についての理解を深めている。現在、成年後見制度を利用している方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の事業所見学を勧め、利用料や起こりうるリスク、重度化や医療連携体制の実際について詳しく説明し、同意を得るようにしている。不安や疑問がないか、面談時に話を聞くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、面会時に意見や要望を聞くようにしている。利用者からは常日頃から何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、職員から要望や意見を聞く機会を設けている。言い難い不満や苦情については意見箱を設置し把握に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得が給料の改善につながり、研修は参加費等で支援する制度があり、向上心を持って働けるよう努めている。また、疲労やストレスに気配りし、有給休暇も取得しやすいよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験、習熟度等に応じて、外部研修への計画的な参加や、eラーニングシステムを利用した自主参加など、感染症の状況をみながら支援している。また、各委員会の勉強会を実施し、全職員が共有できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	美馬市主催の集団指導会や研修会に参加し連携、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			らん 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず事前面談で生活状況や心身の状態を把握するようにしている。本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や今までのサービス利用状況などの経緯をしっかりと聞き、家族が今いちばん困っていることを受け止めるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を確認し改善に向けた支援の提案、相談をしながら信頼関係を築き必要なサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、共に過ごす者同士としてお互いが協働しながらより良い関係性を築けるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には、利用者の日頃の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることを心がけており、本人を共に支えていくための協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力で、地域に暮らす馴染みの人との関係が継続できるよう、感染対策をしながら面会を支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の関係を把握し、個別に話を聞いたり、気の合う仲間と過ごせるよう橋渡しをしながら、利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			らん	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られたり入院された場合には、アセスメントや支援状況等を手渡すとともに、きめ細かい連携を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で、思いや希望、意向などの把握に努めている。把握が困難な場合は、言葉や表情などから思いを汲み取ったり、職員間で話し合ったり家族からも情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のバックグラウンドを、本人をはじめ家族や友人等から情報を聞き把握に努めている。知り得た情報は職員間で共有し、プライバシーに配慮しながらケアに活かせるよう取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の利用者の心身状態を観察し、できること、わかる力を確認し合いチームで共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の要望や職員の意見を反映し、本人が持てる力を発揮しより良く暮らしていけるよう介護計画を作成している。また、状態の変化に応じて職員間でアセスメントやモニタリングを実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に気づきを記入し、情報共有を行っている。変化があった場合、その都度申し送り、ミーティング時に話し合い、ケアの実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに対応できるよう多職種とも連携し支援に取り組んだり、状況に応じて通院や送迎等柔軟に対応し、個々の満足度を高められるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			らん 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、地域資源の把握に努めている。要望に応じて介護タクシーや訪問歯科、訪問理美容を利用できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に受診状況を把握し、本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。他病院には、必要に応じて情報提供を行い、受診結果についても家族と情報共有をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員を配置しており、利用者の日常的な健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。体調の些細な変化を見逃さないよう、早期発見に取り組み、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐために、医療機関に対して事前に本人に関する情報提供をすると共に、医師と話し合う機会を持ち、事業所内で対応可能な段階で、なるべく早く退院できるようアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で、重度化した場合の対応や終末期において事業所としてでき得ることについての説明を行っている。また、状況変化に応じて本人・家族の安心と納得を得られるよう、医療とも連携しながら話し合いの機会を持ち、対応方法を検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師や事故防止委員を中心に、応急手当の勉強会(実技含む)を実施している。また、夜間の急変時に備えてマニュアルを作成し、周知を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。法人内の3施設合同での水害時避難訓練についても年1回実施している。また、災害に備え、食料や飲料水等を準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	らん	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であり、人格者であることを常に忘れず、援助が必要な時も、まずは本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心掛けたり、自己決定しやすい言葉かけをするよう努めている。					
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせて、本人が答えやすく、選びやすいような働きかけをしたり、些細なことでも本人が(する・しない等)決められる場面を作っている。					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日程はあるが、1日の過ごし方については無理強いせず本人のペースを大切に、柔軟な対応を心掛けている。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわり(衣服・ヘアスタイル等)を把握し、その人らしさを保てるような支援を心掛けている。外出が難しい方には、美容師の資格を持つ職員によるヘアカットを2か月に一度行っている。					
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食を提供し、季節感を味わっていただいている。一人ひとりに合わせて食事の形態を考え、できるだけ自分で食べることができ、食事が楽しみなものとなるよう支援している。					
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量、水分摂取量を把握している。状態に合わせて、看護師や管理栄養士のアドバイスを受け、本人の食生活を様々な面から共に支援するよう努めている。					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて、毎食後、歯磨きや義歯洗浄、ポリドントの使用等、口腔内の清潔保持に努めている。また、必要に応じて訪問歯科による義歯調整や口腔ケアを利用したり、アドバイスを受けるなどしながら支援につなげている。					

自己	外部	項目	自己評価	らん	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状態や排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、パット類も本人に合わせて検討している。					
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操と水分補給の徹底を行い、便秘予防に取り組んでいる。便秘がちな方に対しては下剤を使用することもあるが、個々の状態に合わせて薬を調整したり、看護師による排便を行うなどしながら本人の負担にならないよう心掛けている。					
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望に合わせて、柔軟に支援している。重度の利用者については、安全面を優先し特浴を利用するなど個々にあった入浴支援をしている。					
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動性を高め、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。眠剤を飲まれている方には睡眠状況を把握し、日中の活動の妨げになっていないかを確認している。					
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明書をファイルにし、全職員にわかるようにしている。また、日常の記録を医療と連携できるようにし、状態変化があった時は情報提供をし、治療や服薬調整に活かしている。					
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。嗜好品についても、お茶の時間に配慮しながら支援している。					
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見や菊祭りなど季節の花を見に行ったり、担当者と一緒にいきたい場所に、社会見学等できる範囲で出かけたりにしている。重度の方についても、車椅子で戸外に出て日向ぼっこをするなど、気分転換ができるよう支援している。					

自己	外部	項目	自己評価	らん	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で、小額のお金を持っている人もいる。管理できない方は、必要に応じ、事業所が立替え利用していただいている。					
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状を出す支援を欠かさずに行い、利用者の希望に応じて、電話を使用することを個別に支援している。					
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が不快を招かないよう、清潔を保つため細めに掃除している。また、四季を感じてもらえるよう花を飾ったり壁面に行事や外出時等の写真、作品を展示して、居心地の良い空間作りに努めている。					
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やフロアにソファや椅子を置き、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士が日光浴をしたりくつろげるスペースがある。					
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、本人にとって使い慣れたもの、見慣れた物が欠かせないことを家族に話し協力をお願いしている。また、本人の希望があれば、ベッドや家具の配置を変更するなど、担当者や相談しながら居心地の良い居室作りを支援している。					
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアはバリアフリーであり、動線上は手すりをつけている。利用者の身体機能に合わせ、歩行器に目印を付ける等工夫し、危険防止、混乱を招かないよう配慮している。					